GCMSsolution バージョン 1.02 アップデートディスク説明書

(株)島津製作所　分析機器事業部

1．はじめに

このGCMSsolution バージョン1.02 アップデートディスクはGCMSsolution バージョン1.01 からバージョン 1.02 へのアップデートに必要なモジュールが含まれています。下記の「アップデート方法」の手順でファイルを更新していただくことで GCMSsolution を最新の環境でお使いただくことができます。

2．バージョンアップ方法

バージョンアップの際に一度装置本体の電源を切る必要があります。

(1) はじめに GCMSsolution のアプリケーションをすべて終了させてください。

(2) GCMSsolution Ver 1.02 アップデートディスクをフロッピードライブに挿入し、フロッピー内の Setup.exeを実行してください。セットアップ画面が起動しますので「次へ」ボタンをクリックするとセットアップが開始されます。

(3) 画面の指示に従ってフロッピーディスクを交換してください。 セットアップが終了したらフロッピーディスクを取り出します。

(4) 最後に装置本体の電源を切って再起動します。詳しくは装置付属の取扱説明書「2.4 装置の起動・停止」をご覧ください。

(5) GCMSsolution を起動させて、「ツール」メニューの,「プログラムチェック」を選択してください。「プログラムの改ざんチェック」ウィンドウが表示されるので、そこで「実行」ボタンをクリックします。　結果が「改ざん無し」と表示されれば完了です。

＜ご注意＞

本アップデートディスクはGCMSsolution バージョン 1.01（1.01Su1, 1.01Su2, 1.01Su3 のいずれかでも可）がインストール済みであることが前提になっています。GCMSsolution バージョン 1.01 がインストールされていないか、またはバージョン 1.00 がインストールされている場合はアップデートを実施できません。

以上ご不明な点がございましたら弊社「島津分析コールセンター」までお問い合わせください。

[東京(03)3219-1691 または 京都(075)813-1691]

3. GCMSsolution バージョン 1.02 で修正された内容

今回の GCMSsolution Ver1.02 では以下の内容が修正されています。

分類	修正された内容
メソッド設定	データ採取ウィンドウでメソッドファイルの保存を行うと GC パラメータの設定画面に表示されているプログラム時間が間違った値になってしまう。
	MS パラメータの設定テーブルで通常 0 が設定されている最後の行を削除すると、設定内容が分析やメソッドファイルに正しく反映しない場合がある
チューニング	ピークモニターから出力されるレポートの低真空度の値が少数第一位で四捨五入 されている。
データ採取	ディスクの残り容量が 4G バイトから 5G バイトまたは 8G バイトから 9G バイトの範囲でディスク容量エラーが表示されて分析ができなくなる場合がある。
	サンプル登録ダイアログのサンプル量、希釈率の設定値がいつのまにか 0 になっていることがある。 この状態で採取したデータファイルは定量計算ができないため定量結果の濃度が 0 になる（サンプル情報を変更するれば計算は可能）。
	試料導入法として DI を選択しているとき、DI プローブを挿入しないまま分析をスタートしても警告なしでそのまま分析がスタートする。
	DI の昇温が正しく行われない場合がある。
	サンプル登録のコメントに 512 文字（2 バイト文字なら 256 文字）以上を入力して OK ボタンをクリックするとアプリケーションエラーになる。
バッチ処理	バッチテーブルの「実行モード」で「データ採取」のチェックをはずし「メソッドのダウンロード」だけチェックした場合、分析実行時にその行のデータファイルが削除されてしまう。
	バッチテーブルの「解析の種類」で「定性波形処理」をしない設定にしたら「スペクトル処理テーブルの作成」が設定されていてもスペクトル処理テーブルを作成しない。
	分析バッチ処理を開始するとき、レポート出力をしない設定にしていても、テーブルに設定されているレポートフォーマットファイルがディスク上に存在していなかったら、エラーになってバッチ処理が開始できない。
バッチ テーブル	分析バッチ処理を一時停止したときはテーブルの編集が可能だが、「列データの入力」が使用できない。
データ解析	クロマトグラムの形状によっては TIC の波形処理を実行すると制御が返ってこない場合がある。
	定性処理パラメータの波形処理タイムプログラムで値を変更しても変更内容が反映しない。 プログラムの行の追加や削除が伴うと正しく反映する。
	定性処理テーブルで、ピークテーブルの左上隅をクリックしてテーブル全体を選択状態にしたら「スペクトル処理テーブルへ登録」メニューが選択できない。
	検量線ウィンドウの定量処理パラメータに化合物テーブル検索パラメータを設定するためのタブがない。
データ比較	データ比較ウィンドウで表示されるクロマトグラムが定量処理パラメータのスムージング設定に従ってスムージングされている。定性処理パラメータの設定に従うべき。
レポート出力	バッチ処理のとき、横向きのレポートフォーマットを指定しても縦向きのレポートしか印刷されない。
	定量テーブルレポートで詳細表示にしたとき確認イオンの面積、高さ値が出力されない。
	サンプル情報アイテムでデータファイル名を出力するように指定した場合、分析時のデータファイル名が出力される。現在のデータファイル名を出力するよう変更した。また新たに分析時のデータファイルを出力できるようなマクロ $Org Data Name$を追加した。
	インデックス検索結果を 2 ページ以上にわたって出力したとき、2 ページ以降の内容が画面で確認された検索結果と異なる。
	データ解析ウィンドウのグラフイメージの印刷で、スペクトルフォーマットパラメータの部分拡大を設定しても部分拡大がレポートに反映しない。
	強度が 0 のクロマトを印刷したらなにも印刷されない。
	クロマトグラムアイテムにおいて Y 軸を「自動」に設定した場合、Y 軸のスケールがスムージング処理前のクロマトグラムの高さに依存して決まっている。
	プリンターの種類によってはレポートの背景色が黒やグレーになる。

	DI プログラムの維持時間が正しく印刷できない。
レポート編集	レポートをテンプレートとして保存したあと、通常のレポートファイルとして保存しようとしても保存できない。
	マウスのドラッグで領域を指定してアイテムをコピーすると他のページにあるアイテムまでコピーされてしまう。
HS-40 HS-40XL	HS40 のメソッド設定を印刷したとき「オーブン温度」がサンプル温度の値になっている。
システムチェック	GC の設定はなにも変えていないのに、システムチェックを開始したときに「GC の設定がオートチューニングの実行時と違います」とメッセージがでることがある。
その他	シングルユーザーモードでログインしているアプリケーションでパスワードを変更すると、そのあと別のアプリケーションが起動しなくなる。一度すべてのアプリケーションを終了させれば起動する。
	アウトプットウィンドウのタイトル部分をダブルクリックすると Windows の環境によってアプリケーションがロックしてしまう場合がある。
	QAQC のノイズ計算結果が異常な値になることがある。

以下の内容は Supplement Disk 1.01 Su3 で既に修正されている内容です。

分類	修正された内容
再解析	プライベートライブラリを使ってシミラリティ検索を実行しても正しい結果が得られない。これは Ver 1.01 Su2 のみの不具合。

以下の内容は Supplement Disk 1.01 Su2 で既に修正されている内容です。

分類	修正された内容
装置制御	カラム情報が設定されていないと GC との接続に失敗する。
	スプリット比が小さい値（～5、ただし条件により異なる）のとき、分析準備をすると GC 本体の流量またはスプリット比の表示が XXXXX となる場合がある。
	フローコントローラーがないガスポートではスプリット弁を制御できない（CAR2 にマニュアルフローコントローラーを使用しているときなど）。
	環境設定でフロー 2 を使う設定のときでも、自動起動のときフロー２だけでなくフロー 1 も ON になる。フロー２を使っているときはフロー２のみ制御するようにした。
装置モニター	ディスクの残り容量が 4.2GB 以上のとき、装置モニターの空きディスク容量の表示が正しく表示されない。
	CRG を使用してカラム温度をマイナスしたとき、モニター値が 65533 など変な値になる。
環境設定	環境設定で試料気化室を選択していないと、メソッド編集で AUX1 の温度プログラムを設定できない。試料気化室が選択されていなくても AUX1 の温度プログラムを設定できるようにしました。
	環境設定の SPL の設定で一次圧として 980 を選択したとき、パージ圧力の上限は 970 であるはずが 400 になっている。
チューニング	ピークモニターでピークの半値幅を計算する際にベースラインを考慮していない。そのため半値幅が実際より大きく計算される場合がある。
	チューニングファイルを ASCII ファイル形式で保存したとき、ディフレクタの値がメインロッドの値になっている
データ採取	MS の分析は終了しているが GC が分析中にデータ採取画面からのデータ解析（スナップショット）を行うと不正な処理エラーになる。このようなときはスナップショットを実行できないようにした。
	GC が分析中にデータ採取画面から次の分析の準備をするとデータ採取が開始できない場合がある。
	メソッド編集の MS パラメータ画面で SIM テーブルを編集する際、Ch の値を削除してから他の操作をすると、不正な処理エラーが発生する場合がある。
	データ採取画面で表示している保持時間や強度などが文字化けするときがある。
バッチ処理	バッチ処理を実行してもメソッドの MIC テーブルの設定がデータファイルにコピーされない。

	バッチテーブルでユーザープログラムのコピー&ペーストが正しくできない場合がある。
バッチテーブル	テーブルスタイルを変更したバッチテーブルをテンプレートとして保存しても、テーブルスタイルの変更が保存されていない。
再解析	データ解析画面の「メソッドに名前を付けて保存」で「データ採取時の設定」を指定したとき、データ処理メソッドの内容が保存されない。
	プライベートライブラリを使ってシミラリティ検索をしたとき、ヒットしない化合物がある。プライベートライブリの成分数が 256 を超えていたときに発生する。
	定量用波形処理を一度も実行していない状態で ID 番号が２以降のピークを手動波形処理すると不正な処理エラーが発生する。
	DI で分析したデータファイルをデータ解析画面で読み込んで分析時のステータス情報を表示すると、DI 温度を表示するはずがオーブン温度を表示している。
	化合物テーブルで確認イオン比の値を変更し一度設定ダイアログを閉じてから他の ID の確認イオン比を表示させると直前に変更した値が表示される。
	検量線画面で保持時間補正をするように設定していると、波形処理をした後、同定結果が消えてしまう。
	同定法を BAND 法にしたときデータ解析および検量線画面で ID クロマトグラムが表示されない。
	データ解析画面で分析時のステータス情報を表示してもオーブン温度とインタフェース温度が表示されない。
	データ解析画面でスペクトルをダブルクリックするとフラグメントテーブルに行が追加されるが、測定モードが SIM のデータの場合、追加した行を削除することができない。SIM データの場合はスペクトルをダブルクリックしてもフラグメントテーブルに追加されないようにした。
	スペクトル処理テーブルにスペクトルが登録されていないときにシミラリティ検索を実行するとそのまま制御が戻ってこない。スペクトルが登録されていないときはシミラリティ検索を実行できないようにした。
	データ解析画面を開いた直後にサンプル情報が表示されない場合がある。
	同定結果テーブルやレポートの ISTD（内部標準物質）濃度は常に 0 となる。設定値を出力するようにした。
	保持時間補正と確認イオン強度補正を行う設定にしても補正が行われない。
レポート	相対強度補正をした状態のピークモニターからレポートしたとき、ピークの強度値が補正する前の値になっている。
	定量レポートおよびピークレポートの印刷結果で、マニュアルピーク検出したピークのマークが MI でなく V になっている。
	シミラリティ検索結果レポートを印刷したとき、最終ページの後に白紙のページが印刷されることがある。
	CI イオン源使用時にチューニングレポートを出力すると、ターゲットイオン調整 m/z が常に 502 になる。
	クロマトレポートで保持時間範囲を設定したとき、設定範囲より左側にあるピークのピークトップコメントがグラフ枠の左端に重なって出力される。
	メソッドレポートで OCI、PTV、DRI の各温度プログラムが出力できない。
	OCI、PTV を使用していないときでもメソッドレポートで OCI/PTV ファン温度が出力される。
	フラグメントテーブルに登録されているクロマトグラムを出力したとき、TIC を表示しない設定のときでも TIC が出力される。
CLASS-5000 形式のファイル	CLASS-5000 形式のメソッドファイルを検量線画面で読み込んでレポートを出力すると、検量線が正しく印刷されない。一度検量線を作り直すと正しく印刷される。
	DI で分析した CLASS-5000 形式のデータファイルをデータ解析画面で読み込んで分析時のステータス情報を表示しようとすると不正な処理エラーが発生する。
	化合物テーブルは設定しているが定量計算を一度も実行していない CLASS-5000 形式のデータファイルを読み込と不正な処理エラーになる。
	CLASS-5000 形式のメソッドファイルの場合、HS-40 に関する設定が読み込まれない。
	CLASS-5000 形式のメソッドファイルまたはデータファイルの場合、MIC テーブルの内容が読み込まれない。

ファイル検索	ファイル検索を使って測定モードが SIM のデータファイルだけを表示させようとしてもバッチ処理で採取した SIM のデータファイルは表示されない。
HS-40 HS-40XL	HS-40 を使った分析でバイアルを正しく認識しない場合がある。
	HS40XL を使った分析中にエラー等が原因でバッチ処理が中止した場合でも、HS40XL は動き続けてしまう。
	HS-40 を使用してバッチ分析を行うと、2 行目以降の分析ができない。HS-40XL の場合は正常に動作する。
	HS-40 を接続しているとき、環境設定で HS-40XL を選択すると次回起動時に不正な処理エラーになる。
	HS-40XL 使用時、ゾーン温度設定が(O/N/T)のとき、オーブン温度の値が装置に反映しない。
	HS-40 または HS-40XL を使用しているときにバッチ処理の一時停止ができる。HS-40 または HS-40XL を使用しているときは一時停止ができないようにした。
システムチェック	システムチェックにおける GC 消耗品の使用回数がアプリケーションを起動する毎に 0 になってしまう。これは Windows 95 のみの不具合。
その他	テンプレートにコメントが保存できない。
	WindowsNT にログインしているユーザーが Administrators グループに所属していないと分析実行時にエラーになる。